

医薬情報科学

| | | | |
|--------------|--------------------|--------|---------|
| 責任者・コーディネーター | 薬物代謝動態学講座 小澤 正吾 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 薬物代謝動態学講座 | | |
| 対象学年 | 4 | 区分・時間数 | 講義 18時間 |
| 期 間 | 前期 | | |
| 単 位 数 | 1単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

医薬情報科学は、薬物の適正使用のために必要な情報の収集、および活用を期するための基礎的な知識の修得を目指す。情報収集、評価、患者への提供ならびに、十分な科学的根拠に基づく医学について理解を深める。

・一般目標（GIO）

科学的根拠に基づく医学を実践する医療従事者として、常に参照すべき医薬品情報について理解を深める。医療用医薬品添付文書、薬効、警告、禁忌、相互作用、副作用、薬物動態など医薬品情報と患者情報について理解し、個々の患者に応じた投与計画を立案できるように個別化薬物療法の知識を修得する。

・到達目標（SBO）

1. 医薬品として必須の情報を挙げるができる。
2. 医薬品情報源の種類を列举し、内容を概説できる。
3. 医薬品添付文書に記載される項目を列举し説明できる。
4. 医薬品の副作用、有害事象について概説できる。
5. 医薬品情報源の薬物療法への活用法を説明できる。
6. 科学的証拠に基づく医療（EBM）の意義と実践法を概説できる。
7. 薬物治療に必要な患者情報の種類を挙げるができる。
8. 患者情報に配慮することの重要性を説明できる。
9. 抗悪性腫瘍薬などの医薬品情報の収集法について概説できる。（☆）
10. 薬物の作用発現に影響を与える要因を列举できる。（☆）
11. 薬物作用の評価における体内動態モニタリングの重要性を説明できる。
12. 薬物作用を規定する年齢的要因、生理的要因に配慮した薬物治療を概説できる。
13. 医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理の方法について説明できる。

・講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|-----------|----------|------------------------|
| 4/9 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 医薬情報科学の概要 |
| 4/16 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 医薬品情報の収集 |
| 4/23 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 医薬品添付文書情報と医薬品データベース |
| 5/7 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 医薬品の副作用情報、有害事象情報の収集と活用 |

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|-----------|----------|------------------------------|
| 5/14 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 医薬品情報源の種類と活用 |
| 5/21 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | EBM と薬物療法 |
| 5/24 | 木 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 患者情報の収集と薬物療法 |
| 6/4 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 臨床の現場と医薬情報活動(1) |
| 6/11 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 臨床の現場と医薬情報活動(2) |
| 6/18 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 薬効、有害事象発現を規定する遺伝因子薬物動態モニタリング |
| 6/25 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 総合演習 I |
| 7/2 | 月 | 1 | 薬物代謝動態学講座 | 小澤 正吾 教授 | 総合演習 II |

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---------|------------------------|------|
| 教 | Standard textbook 標準医療薬学 医薬情報評価学 | 山田 安彦 編 | 医学書院 (定価 4,500 円) | 2009 |
| 参 | スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病Ⅲ 薬物治療 (2)および薬物治療に役立つ情報」 | 日本薬学会 編 | 東京化学同人 (定価 4,600 円) | 2005 |

・成績評価方法

定期試験、演習、レポート及び出席を総合的に評価する。